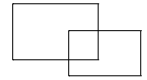


10:00~12:30

## 特別講演



# 「歯周治療の長期的成功のために必要な知識」

二階堂雅彦先生

いまや「猫も杓子もインプラント」の時代になってきました。確かにインプラントはこれからの歯科治療になくてはならないものです。しかしまだ保存できるはずの多くの歯が、「予知性」という名のもとに抜歯される現状を、われわれ歯周病治療を志す者が見過ごしてよいのでしょうか！？

確かに歯の予後は、インプラントの予後に比べ予測が難しいです。しかし「われわれ歯周病治療を志す者」が、歯周病の成り立ちを理解し、個々の患者、歯の予後を予測し、歯周炎でダメージを受けた歯、歯列の回復法に精通し、歯を残してほしいという患者の要望に答えなくては、ほかに誰が答えることができるのでしょうか！

本講演では前述したそのポイントについてエビデンスをふまえて述べていき、歯周病に罹患した歯はどこまで保存することができるのか、考えていきたいと思えます。

### 二階堂雅彦先生 プロフィール

1981年 東京歯科大学卒業  
1981~84年 同歯科麻酔学教室  
1997年 タフツ大学歯学部歯周病学大学院修了  
1997年 アメリカ歯周病専門医  
2003年 アメリカ歯周病学ボード認定医  
2006年? 東京歯科大学臨床教授  
2008年? 東京医科歯科大学歯学部非常勤講師



現在 二階堂歯科医院 (東京都中央区)  
日本臨床歯周病学会指導医  
EPIC研修会主宰

14:00~17:00

シンポジウム

## 『インプラント周囲炎』

---



座長 吉野敏明先生  
演者 篠崎稔先生  
吉野宏幸先生  
依田泰先生

「天然歯とインプラントの共存を目指すためには？」 ————— ● 篠崎 稔

骨結合型インプラント治療の歴史は44年と短い、1998年のトロント会議では現在の「インプラント治療に対する成功の基準」が定められ、高い予知性に裏づけられたインプラント治療はその後さまざまな欠損形態に応用され始めた。一方あらゆる欠損に応用され始めたインプラント治療であったが、インプラント周囲炎による失敗例も散見されるようになった。今回、比較的長期の症例とインプラント周囲炎を発症した症例を提示し私見をまじえ発表させていただきます。

「インプラント周囲炎とは」 ————— ● 吉野 宏幸

過去の様々な疫学研究から、重度歯周疾患患者におけるインプラントの生存率・成功率の低さが示唆されている。しかし、一方では関連の無いことを示す文献も存在し、未だその係わり合いに関して統一見解は得られていない。さらには、インプラント周囲炎の治療法に関しても確立されておらず、インプラント周囲炎で困る患者は増える一方である。そこで、現在、解明されている部分がどこまでなのか、逆に何が分かっているのかを文献的に考察したい。

依田 泰

インプラント治療に携わり17年が経過し、インプラント周囲炎のケースにも遭遇するようになった。そこで少ない臨床経験の中からではあるが、インプラント周囲炎を惹起させないようにするために、わたしが配慮していることについて症例を提示しながら皆さんとディスカッションをし、インプラント治療に従事する我々歯科医師、スタッフが正しくインプラント周囲炎と向き合い、主役である患者さんをインプラント周囲炎に罹患させないために何をすべきであるかを検討したい。